



祝成人！ おめでとうございます。


令和3年 比布町成人式

1月10日 令和3年比布町成人式

コロナ禍で様々な制限がある中、同級生らと久しぶりに顔を合わせた新成人23人。会場にはマスク越しの笑顔があふれていました。

(写真は記念撮影のため、一時的にマスクを外しています)



 町民のみなさんと議会をつなぐ

ぴっぷ議会だより

- 2-3 審議結果「第4回定例会」ほか
- 4-9 一般質問
- 10-11 総務・産業建設常任委員会報告

12月10日

第4回定例会



令和2年度一般会計補正予算など議案5件を審議

12月10日に開かれた令和2年第4回定例会では町の課題等に対し、6議員が一般質問をしました。その後、議案5件を審議し、すべて原案のとおり可決しました。なお、一般質問は4〜9ページに掲載しています。

変更

◆定住自立圏の形成に関する協定の一部を変更する協定

次の3事業について新たに旭川市と協定を締結するものです。

【原案可決】

□就業マッチング促進事業

産業の担い手不足解消を図るため求職者や企業に対し、就労体験を通じたマッチング機会の提供、高校生等に対しインターンシップ体験や学習を支援します。

□eスポーツ拠点の整備による先端技術人材の育成と地域経済の活性化

eスポーツ、プログラミング等の拠点施設において、ICT分野



における人材育成と若者が集う新たな賑わいの場を作り出し、圏域全体の魅力向上と観光客の誘致を図ります。

□地域の強みを生かした産業振興

地域それぞれが持つ魅力的な産業やデザインを生かし、販路の拡大をより強く進めていきます。

条例

◆比布町後期高齢者医療に関する

条例の一部改正

◆比布町介護保険条例の一部改正
地方税法の一部改正に伴う条例改正です。

【原案可決】

補正予算

◆一般会計(第8号)

◆介護保険特別会計(第3号)

補正額と総額、主な内容は次ページ左上の表のとおりです。

【原案可決】

第5回臨時会

10月23日

◆比布町空き家等の適正管理に関する条例の制定

空家等対策の推進に関する特別措置法の規定に基づき、条例を制定するものです。
【原案可決】

◆一般会計（第7号）

補正額と総額、主な内容は左の表のとおりです。
【原案可決】

令和2年度各会計補正予算（第5回臨時会）

一般会計（第7号）

659万6千円の増
（総額44億6,144万7千円）
■空き家等適正管理事業の増

令和2年度各会計補正予算（第4回定例会）

一般会計（第8号）

2,427万3千円の増
（総額44億8,572万円）
■バス関係事業、保育所措置事業の増ほか

介護保険特別会計（第3号）

187万円の増
（総額6億1,621万3千円）
■介護保険システムの改修に伴う委託料の増

第6回臨時会

11月30日

◆議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

◆特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

◆職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

◆会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

人事院給与勧告に基づき、議会議員、特別職、職員に支給する期末手当の割合を100分の5引き下げる改正です。
【原案可決】

議案書を貸し出しています



傍聴をされる方に、議案書などの資料を貸し出しています。（5名分）
傍聴受付簿の横に備えていますので、ご利用ください。

報告

上川管内町村議会議員研修会

令和2年10月9日、たかすメロデーホールで開催された上川管内町村議会議員研修会に参加しました。

研修会では2講師による講演が行われ、初めに新潟県立大学国際地域学部准教授の田口一博先生から「議会を取り巻く動きから」と題し、地方議会の現状と課題が話されました。（写真①）

講演の中では、議員定数や議員報酬など厳しい指摘も多く、議員のなり手不足が問題になっていることにも触れました。なり手確保については、まちづくりの未来を担う人材育成、後継者を育てることが必要不可欠であり、若い人たちに政治に興味を持ってもら

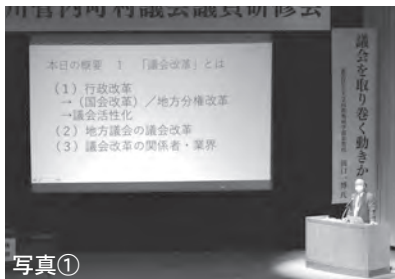
うことも大事なことと思います。

次に、一般社団法人札幌農学校窓会理事長の松井博和先生を講師に「志ある若者を育てるには」と題し、講師の人生観をキーワードを基にした話が展開されました。（写真②）

講師は、社会の変化に対応し自立した志あるリーダー（人材）が育っていないと述べ、信頼感があり相手の主張に敬意を払い、忍耐そして受け入れる寛容性が重要と話していました。

今回の講演では、人材育成の大切さを学ぶとともに、今後も町民、行政、議会が一丸となり、まちづくりを行っていくことの意義を再確認できる良い機会となりました。

（大熊 勝幸）



写真①



写真②





10年後の農業をどう描くのか 農家減少に対する将来ビジョンは

村中町長

主役である農業者や農協が目指す姿に 必要な支援をしていきたい



遠藤 ハル子 議員

□質問・遠藤議員

J A びつぷ町の資料によると水田耕地面積は約2、200ヘクタール、農家戸数は354戸、水田作付農家136戸と大幅に減っています。1戸当たりの耕作面積は増えていますが、米の出荷量が年々減り続けています。

共同出資の協同組合を組織再編計画の名のもとに、国の規制改革会議が推し進めているのは信用事業と保証事業を切り離して準組合員を利用させない動きや、農協中央会による監査をやめさせ投資家を保護する動きも強まっています。今、農家戸数を増やしていかないと将来的に比布町の農業は成り立たなくなるのではないかと思えます。農家減少に対する10年後の農業の将来ビジョンを伺います。

■答弁・村中町長

農林業センサスによる全道の農業者人口は5年前から17%減少し、人口減や少子高齢化時代を迎えた日本は、様々な分野で人材不足や高齢化が問題となっており、いつまで現状を維持できるのか不安を感じるところです。

耕作面積を維持する視点で見ただけで、高齢等によって農地を手放す方が増え、担い手と呼ばれる認定農業者の方々へ農地が引き継が

れています。担い手への集積率向上のため、町としても農地維持への支援として「農地流動化促進対策事業」により農地の賃貸や売買の促進を図っています。

水稲作付農家は、年間約5軒ずつ減少しており、令和元年度は前年度より11軒減少しました。このことから10年後の水稲作付農家は100軒以下になることが予想されます。

現在の農地の動向を見ると経営面積の大規模化は続いていくと考えており、水稲作付に適した本町の多くの農業者の経営方針と関わっています。

一方で、畑作物や青果物の振興に課題があることから、作業受託の体制整備や少ない面積でも高収益を得る農業の担い手育成などに農協とともに検討していかねばならないと思えます。

農協法の改正趣旨にもあるとおり、農業の主役は農業者です。そして農業者へのメリットを出すために組織されているのが農協です。町としては、農業者や農協がどのような将来像をもって進むのか、そのためにはどのような支援が必要なのかを見出し、農業行政を進めていきたいと考えています。

□質問・遠藤議員

野菜農家が減少しているのであれば、学校給食への納入を考え、家族農業を支援し、生産量を上げ農家に作る喜びと地域への貢献により誇りが持てるような支援策を考えてはどうかと思います。そのような中で、1、2ヘクタールでも野菜を作りたいという新しい農家を増やしてはどうかでしょうか。

■答弁・村中町長

小規模な農家でも高収益をあげられるような計画があれば、ぜひ協力していきたいと思えます。

□質問・遠藤議員

「国連家族農業10年」(2019〜2028年)がスタートしています。家族農業をどのように考えていますか。

■答弁・村中町長

上川農業試験場がある比布町では将来的にも米作りがメインになると思っています。法人の農家は従業員を雇用していかねば、野菜まで手が回らないのが現状です。その中で野菜を振興するのに大切なのは、小規模農家だと思っています。将来的にはそういった農業が理想かと考えています。



一般質問 ズバリ！ ここが聞きたい

文化活動をまちづくりに 生かしては

村中町長

文化は多様化しており できる限り協力・支援をしたい



植西 浩一 議員

①除雪の障害となる駐車車両の
一掃に向けて

□質問・植西議員

夜間、道路に常時駐車したり、
放置している車両を町内の交通安
全に関わる部署もしくは団体に注
意喚起させてはいかがですか。

■答弁・村中町長

行政として路上駐車に対し、直
接指導をすることはできませんが、
交通安全等を確保するための啓蒙
活動を行うことにより、結果とし
て路上駐車が減り、除雪作業をス
ムーズにすることは可能と考えま
す。今後、町内の駐在所、建設課
とも緊密な連携を図り、防災行政
無線や広報紙などを介し、路上駐
車を減らすための啓蒙を図ってい
きます。

②文化活動でまちづくり

□質問・植西議員

町民が現在参加しているたくさ
んの文化活動をまちづくりに生か
してはいかがでしょうか。また、
スポーツなど、町外の人も参加し
やすい文化活動もまちづくりに活
用する考えがあるか伺います。

■答弁・村中町長

本町の文化活動は文化連盟に14
団体、体育協会に10団体が加盟し

ています。

音楽や美術、芸能などは、人々
に感動ややすらぎをもたらすだけ
ではなく、地域の一体感を高め、
地域らしさを発信するなど、地域
を元気にする力を秘めており、町
民が自ら地域に誇りや愛着、希望
を持ち続けることができます。

活動により「生きがい」や「楽
しみ」、「仲間づくり」などが育まれ、
心豊かな生活を営むことができま
す。しかし、ここ数年においては
高齢を機に活動を自粛される方も
多く、様々な形で会員を募集して
いますが、新規加入者も少ないこ
とから解散する団体も増えてきて
います。

□質問・植西議員

ひとくくりで文化といっても、
最近ではサブカルチャーも文化活動
として認められています。スポー
ツにおいても同じような傾向があ
ります。例えばパリのオリンピック
クでは、「ブレイキン（ブレイクダ
ンス）」などが正式種目として認め
られました。このように町内の文
化活動、スポーツ活動などのカテ
ゴリーをもう少し広めようという
考えはありますか。

■答弁・村中町長

文化というのは多様化しており、

ここ数年で大きく変わってきてい
ると感じています。旭川市には、
これまではテレビゲームと言われ
てきたeスポーツの拠点施設がで
きました。町民の方がどのくらい
関わっているかはわかりませんが、
文化連盟や体育協会でも行ってい
きたいという意見があれば、でき
るだけ楽しみが叶えられるように
支援していきたいと思っています。

□質問・植西議員

町がそのような様々な文化活動
に対して助成金の対象条件を緩和
することは可能でしょうか。

■答弁・村中町長

できるだけ様々な活動に支援し
たいと考えています。その中で、
例えばスケートボードで駐車場で
使用したいという要望があれば、
使用を許可するなど、できる限り
協力をしたいと思います。



※サブカルチャー 社会の正統的、
伝統的な文化に対し、比較的新しく
登場した独自性のある文化。大衆文
化・若者文化など。



妊産婦に対する 新たなサポート支援の考えは

村中町長

令和3年度から助産師による 居宅訪問型「産後ケア事業」を実施する



安藤 裕子 議員

□質問・安藤議員

第12次比布町まちづくり計画の中に「子育て支援政策」・子育て世代の方々が安心して子育てができる環境整備を進めるとあります。現在、妊娠・出産・産後の経過における保健師等のサポートや保健センターでは親子を対象とした支援の場「こどものひろば」が整っています。肉体的に大変な時期でもあり、最も支援を必要とするときです。

民間の調査では、今、コロナ禍の中「産後うつ」のリスクが2倍に増えているという結果もあり、公的支援だけでは難しい様々な課題解決のため、社会資源を利用しながら安心して過ごすことのできる基盤づくりにと、民間の支援サービスを利用した妊産婦に助成金1万円を上限とした「産前・産後サポート費用助成事業」を施行している自治体もあるようです。

町では今後、妊産婦へ新たな支援の考えはあるか伺います。



■答弁・村中町長

令和元年12月に「母子保健法の一部を改正する法律」が公布され、支援が必要な出産後1年以内の母親とその子を対象に、産後ケア事業が自治体における努力義務として法定化され、3年4月1日から施行されます。

町ではこれまで、妊婦健康診査費用の助成や妊婦訪問・新生児訪問・こどものひろばを活用した出産後の子育て支援を中心に事業展開を図ってきましたが、産後の母体の直接的なケアについては、産科医療機関に委ねているというのが実情です。

近年の核家族化や晩婚化、若年妊娠等により身近な人の助けが十分得られず、不安や孤立感を抱いたり、うつ状態の中で育児を行うケースもあり、それが子どもへの虐待の誘因になるとの指摘もあります。産後の育児を家庭のみに任せるのではなく、生活している地域で支援を行うことが重要だと考え、3年度から「産後ケア事業」を実施する予定です。

具体的には助産師が利用者宅を訪問して保健指導や産婦の母体管理、体力回復支援、授乳指導等を行う居宅訪問型の支援を想定しています。

□質問・安藤議員

こどものひろばで産前産後の支援ニーズを聞き取ったところ、家事代行・整体・ヨガ等の支援サービスを利用してみたいとの声がありました。民間事業者のサービスを試しに利用するための費用助成金についての考えを伺います。

■答弁・村中町長

3年度からの事業が完成形ではなく、まず第一歩として、今後さらにケアを充実できるように研究していきたいと考えています。

民間の力を活用しながらというのは大いに共感するところですが、行政からの助成金を町外で使うことも一緒に議論していく必要があるかと思えます。産前産後の女性をケアすることにより、子どもも健やかに成長することができると思いますので、女性の意見も十分参考にし、より良い仕組みや制度ができればと思います。



すくすく子育て講座
「フラワーアレンジメント」



コロナの影響を受ける 事業者に対する支援の継続を

村中町長

今年度実施の2つの事業は 次年度も継続実施していきたい



谷口 雅浩 議員

□質問・谷口議員

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける事業者に対する支援及びびっぶスキー場の営業について、2点、町長に考えを伺います。

①町では独自に緊急特別支援制度を創設し、その資金の融資を受けた事業者に対して、返済期間内における利子の全額補給並びに融資に係る信用保証料の全額補給を行いました。長引く状況を考えると次年度も同様の支援が必要ではないでしょうか。

また、比布町商工業振興事業の新型コロナウイルス感染症対策（感染予防に係る経費、業務改善・売上向上対策に係る経費の補助）を継続実施する考えはありますか。
②びっぶスキー場について、昨シーズン後半は閉鎖という事態になりました。今年度は感染症対策を行って営業するのが望ましいと思いますが、考えを伺います。

■答弁・村中町長

「緊急特別資金利子等補給事業」は6事業所の利用があり、9月30日に受付を終了しました。期間を延長する考えはありませんでしたが、再び感染が拡大し、緊急事態宣言が発令される可能性も否定できないことから、要望がある場合は受付を再開したいと考えています。

す。なお、令和3年度についても緊急時の支援策として制度を残す方向で検討しています。

商工業振興事業における「新型コロナウイルス感染症対策型」の補助については、感染予防対策や業務改善、売上向上対策など、ウィズコロナ時代においても耐えうる事業所として継続し、成長発展するための制度であり、次年度も継続を検討しているところです。

びっぶスキー場は、感染予防対策を講じながら営業していきます。施設内及び従業員は感染予防対策とともに、来場者へも感染予防対策を呼びかけていきます。また、スキー場エリア内の事業者も、それぞれ対策を講じて営業していることを確認しています。

□質問・谷口議員

3年度も「緊急特別資金利子等補給事業」を実施したいという答えをいただきたいのですが。

■答弁・村中町長

コロナ関連事業の状況を見ながら当初予算案に盛り込みます。

□質問・谷口議員

「新型コロナウイルス対策型」は小規模事業者にとっては非常に有効

な施策で、継続が必要と考えます。

■答弁・村中町長
同様に社会情勢を見ながら提案したいと思います。

□質問・谷口議員

スキー場施設内は定期的な換気を行うとのことですが、具体的に時間などは決めていますか。

■答弁・村中町長

建物内については2時間ごとに5分程度の換気を予定しています。

□質問・谷口議員

センターハウス、雪番屋において密を避けるために土曜・日曜に関しては車内での休憩をお願いする放送も必要だと思えます。

■答弁・村中町長

各食事提供事業者にはテイクアウトメニューを用意いただき、また、そのことも放送しながら、車内での休憩をお願いしていきたいと思えます。



テイクアウトメニュー



くるみ保育園改築計画の 進捗状況は

村中町長

認定こども園としてスタートする 準備期間として1年先送りとなった



佐藤 康則 議員

①比布町文化財（民俗資料等）の保存と郷土資料館について

■質問・佐藤議員

比布町有文化財は昭和39年より、開拓期からの収蔵品を展示すべく4度の回顧展が開催され、『高齢者は来し方を懐かしみ、若者は先人の苦勞を偲んだ』そうです。

一方、二度の移築を重ね71年の経過とともに劣化が進行している郷土資料館建物の対応を伺います。

■答弁・北川教育長

建物の老朽化による文化財の損失・亡失や劣化を防ぎ、小規模修繕を施し維持管理を徹底していきます。

■質問・佐藤議員

現展示物は戦後約75年の経過が空白で、貴重な資料保持者も保存に苦慮され廃棄に至っています。さらに各世代の経験者でなければ系統展示や解説書が明記できない可能性もあります。建設期からの耐震強度も備わり将来にわたる資料も十分収蔵できる旧蘭留小学校の校舎再利用を含め郷土資料、文化財の維持・継承を示唆していただきたいと思えます。

■答弁・北川教育長

旧蘭留小学校も含め町有文化財の保管活用を念頭に検討していきます。

②くるみ保育園改築計画の進捗は

■質問・佐藤議員

令和2年6月の一般質問では法人との揺るぎない信頼関係と協力体制構築のもと、施設改築を支援するという心強い印象の答弁でしたが、先送りとなった原因と所見を伺います。

■答弁・村中町長

予定地に反する意見や住民への説

明期間と築後5年以内とした認定こども園への移行を開園に合わせ、その研修期間も含め法人の意向により先送りする結論となっております。

■質問・佐藤議員

町の提案地でありながら反対意見や異論は直接法人に申し出ることか伺います。

■答弁・村中町長

土地の所有責任として一緒に住民へ説明することが大切だと考えます。

■質問・佐藤議員

近年、大規模建設物に伴う公債費の増加が町財政を押し、国もコロナ禍で財政出動が増大している中、確かな財源確保と今後健全な町財政運営が担保できるかを伺います。

■答弁・村中町長

認定こども園として開設することで補助の上乗せ（約3千万円）があり、これまでの計画よりも有利となります。

■質問・佐藤議員

認定こども園への移行や既存の広場を予定地とする計画が理事者・担当課・法人にとどまり、仮に公設民営であっても園舎改築検討委員会を設置し、多数の協議が必要と考えます。

■答弁・村中町長

建築は法人の事業で、理事会の決定に町は協力していく立場です。説明会等は法人の役員会・理事会で決定されていくと思えます。

■質問・佐藤議員

建設費を含む重要項目を定める覚書の作成締結、合意がなされているか伺います。

■答弁・村中町長

建設に関する決めごとは今回の決定を受け、書面の交換を行います。

■質問・佐藤議員

民間保育園は0〜2歳児までの待機児童を保育し、3歳児から法人保育園に入園し、新園舎設置後も同様の状況を継続するのか。民間・法人・行政の合意と町民に対し周知をされているか伺います。

■答弁・村中町長

一民間事業者の考え方が優先される問題であり、町が介入することでもなく、書面での取決めもありません。

■質問・佐藤議員

今後、両施設の定員割れという状況も予想され、運営については行政が介入すべきではないか伺います。

■答弁・村中町長

少子化が進むにつれ当然考えられ、一定の保育の質を維持できるように同様に経営支援をします。

■質問・佐藤議員

現地2基の慰霊碑はどのような対応をされるか伺います。

■答弁・村中町長

招魂慰霊碑は遺族会より維持管理も困難で石碑の危険性から撤去の許可を受けており、改修も視野に協議します。

家畜慰霊碑は経緯を調査しており、畜産振興会・農協と移転も含め協議していきます。

■質問・佐藤議員

招魂慰霊碑は先人の方々があの場を選定した由縁と家畜慰霊碑には元助役が家畜の生涯を思いつづった詩も刻まれ、その心とともに現地にありべきと考えますが所見を伺います。

■答弁・村中町長

不易流行という言葉も大切に、各碑関係者と十分協議をしていきます。



冬いちごの今後と 新たな青果振興について

村中町長

実証実験の結果を検証しながら 農業者が求める支援をしていきたい



今井 明信 議員

□質問・今井議員

比布町は言わずと知れた「スキーといちごの町」ですが、現在、いちご生産は減少傾向にあります。特に大きな問題は生産後継者の問題と考えます。

町は令和元年度より冬いちごの生育を実証実験しています。1年目は残念ながら予定収穫量に達しなかったと伺っています。その結果も踏まえて、次のとおり質問します。

①今後、冬いちご生産について、計画している出荷数量と収益、生産農家戸数は。

②これから主食用米生産数量が抑えられることも予想される中、水稻生産農業者が多い本町の農業振興について、新たな青果振興など町としての考えと農業支援のスタンスを伺います。

■答弁・村中町長

令和元年度より10年間の実証栽培が始まりました。計画数量は11ヶ月で1,200〜1,600kgの収穫、収益は約100万円と計画しています。生産農家戸数については、現在お示しできる段階ではありません。実証事業の結果により支援制度を検討して生産戸数の増加に努めます。

令和3年産主食用米の生産の目

安は減るものと予想していますが、すぐに青果や畑作物への転換は難しいと考えます。町として農業支援のスタンスは農業者の収益が大事であり、そこに支援することだと思えます。

□質問・今井議員

実証実験による計画数量と収益に対してランニングコストが収益以上にかかり、200万円とも伺っていますが、利益は見込めますか。

■答弁・村中町長

10年間でどれだけ生産性があるのかを検証するのが、この実証実験です。収量が少ない理由も分かっており、現状では実験を止める必要はないと思えます。ランニングコストは価格の乱高下もあり分かりますが、あくまでも実証実験です。

□質問・今井議員

生産数が少ない道内産冬いちごは本州産や海外産と比べると品質や数量は比較になりません。比布町産冬いちごの価格や価値は上がらないと考えますが、町長の考えを伺います。

■答弁・村中町長

北海道ブランドは世界に通用す

ると思っています。実証実験が始まって以来、大きなお菓子屋や小規模な事業者からも比布のいちごが欲しいというオファーがあります。今後、いちごを含め全て北海道産の原材料を使用したお菓子ができる可能性もあり、価値は生まれてくるものと考えます。

□質問・今井議員

現在の主食米生産の目安を維持していけば今後、確実に生産数量は抑えられます。そこを踏まえて、未執行のある町単独補助金の在り方、現在の町重点振興野菜とこれからの青果振興について、そして生産農家戸数が多いオクラの選果場設置の検討について伺います。

■答弁・村中町長

町単独事業の精査については、ご指摘のとおり青果生産拡大をされる方も少なく、補助金は使われていません。水稻が基幹作物の本町にとってリスクを分散する意味からも畑作物、青果に取り組むことは大事かと思えます。

現在、オクラの生産が非常に伸びているのは承知しています。道内のシェアも多くあり、また、選果場については農協の計画にありますので町地域農業再生協議会の中でも協議は必要と思っています。

委員会のactivities

活動

総務常任委員会

10月19日開催

【総務企画課】

《協議事項》

■第5回議会臨時会提出議案

総務常任委員会

11月25日開催

【税務住民課】

《報告事項》

■町税等の収納状況（10月末）

■上川広域滞納整理機構の収納状況

《協議事項》

■比布町合葬式施設整備

令和3年5月からの開始に向け、条例の改正案を協議しました。

■マイナンバーカード交付率

令和2年10月末で17・06%

【保健福祉課】

《報告事項》

■高齢者等除雪サービス事業

◇除雪サービス 112世帯

◇門口除雪サービス 83世帯

■各種健診等の受診状況

■各医療費の状況

■介護保険事業の利用状況

要介護認定者は300人。居宅・

地域密着型・施設などで262人

が利用しています。

《協議事項》

■第4回議会定例会提出議案

◇比布町介護保険条例・後期高齢

者医療に関する条例の一部改正案

◇令和2年度一般会計・介護保険

特別会計補正予算案

《その他》

■くるみ保育園の新園舎建設

開設当初から「認定こども園」

をスタートするため研修等を行う

必要があることから開設が1年先

送り（令和5年4月）となりました。

■上川中部基幹相談支援センター

及び上川中部こども通園センター

に係る一部事務組合化に向けた協

議の進捗状況

【生涯学習課】

《報告事項》

■令和3年度就学予定児童（21名）

■小中一貫教育の取り組み

■君の夢プロジェクト推進事業の

実施状況

■中学生チャレンジゼミ

47人受講。授業動画を視聴しな

がら学習しました。

■運動と食による脳の活性化事業

の進捗状況

◇「食」令和2年10月21日、置戸

町食育アドバイザー・佐々木十美

氏による給食調理視察、試食、調

味料確認、関係者ミーティング

◇「運動」令和2年11月5日、地域

おこし協力隊・藤本隆靖氏による小

学6年生を対象に運動教室（体験）

■公民館事業・子ども体験教室・

図書館事業

■第72回成人式

令和3年1月10日に規模縮小を

して開催

■町民文化祭

令和2年10月30日～11月1日、

作品展のみ開催

■第1回比布町ヒルクライムレー

ス大会結果

■各種大会の中止

第47回比布町長旗・教育長旗上

川管内町村剣道大会、第11回全町

親睦ミニバレーボール大会、第42

回全町女性バレーボール大会

■新型コロナウイルス感染症対応

地方創生臨時交付金事業の進捗状況

【総務企画課】

《報告事項》

■第4回議会定例会提出議案

■表彰について（功勞表彰・善行

表彰・感謝状）

■新型コロナウイルス感染症対応

地方創生臨時交付金の状況

■ふるさと納税の状況

■地域おこし協力隊の活動

《その他》

◇特定空き家の認定 2件

◇公職選挙法の一部改正

令和2年12月12日施行。令和3

年3月議会で条例案を提出予定

《協議事項》

■第6回議会臨時会提出議案

◇議会議員の議員報酬及び費用弁

償等・特別職の職員の給与・職員

の給与・会計年度任用職員の給与

及び費用弁償に関する条例の一部

改正案

■第4回議会定例会提出議案

◇定住自立圏の形成に関する協定

の一部変更案

◇令和2年度一般会計補正予算案

道北バスの支援について、コロ

ナの影響による減収額を沿線自治

体が支援。比布町は6路線・1、

400万円を支援する。



今春廃駅となる「JR南比布駅」

産業建設常任委員会
12月3日開催

■廃駅記念イベント

「ありがとう南比布駅・北比布駅」と題し、令和3年3月中旬に開催。一文字掲示・ライトアップ・記念品の配布などを予定。

【産業振興課】

▽農林部門

《報告事項》

■米出荷・青果物販売実績

◇米 (11月20日現在・60kg/俵) 99,204.4俵

◇小麦 2,959俵

◇大豆 2,689俵

◇そば 888俵 ※45kg/俵

◇小豆 84俵

◇青果は、きのこの販売先変更による減などで出荷量は前年比88.5%

■経営所得安定対策等交付金

◇畑作物 6,416万円

◇水田活用

(1)戦略作物助成 1億6,474万円

(2)産地交付金

道 枅 1億3,262万円

地域枅 1億7,193万円

■町単独事業実施状況

◇青果物等振興事業 8件

◇畜産振興事業 9件

◇農地流動化促進対策事業

売買支援38件・賃貸支援35件

◇ぴっぴいちご新たな生産モデル

確立実証事業 1件

■令和3年度産米「生産の目安」に係る経過と予定

■ぴっぴいちご振興事業(2期目)の経過

■高収益作物次期作支援交付金追加措置

■比布町型スマート農業推進事業

《協議事項》

■第4回議会定例会提出議案

◇令和2年度一般会計補正予算案

■次年度以降の農地流動化促進対策事業について

▽商工・観光部門

《報告事項》

■令和2年度各施設の利用状況

◇遊湯ぴっぴ 前年同期67.8%

◇グリーンパークぴっぴ 前年同期101.7%

◇ぴっぴスキート場 シーズン券販売額は前年比96.2%

■令和2年度商工業振興補助事業

8事業所 1,256万円

■緊急特別資金利子等補給事業

■新型コロナウイルス感染症対応

地方創生臨時交付金を活用した事業の実施状況

(1)「がんばろう!ぴっぴ応援特別

商品券」給付事業

商品券利用率91.2%、食事券

利用率80.6%(11月19日現在)

(2)ぴっぴ良佳村エリア特別利用券

給付事業

利用率67.4%(11月末現在)

(3)テイクアウトサービス支援金交

付事業

6件 交付額21万円(11月末現在)

(4)事業継続応援給付金交付事業・

コロナに負けない事業所応援給付



「新ぴっぴスタイル」で実施されたイベント

《協議事項》

■第4回議会定例会提出議案

◇令和2年度一般会計補正予算案

【建設課】

《報告事項》

■建設工事の発注及び進捗状況

■令和2年度除雪計画

◇町道除雪総延長 124.4km

◇除雪トラック等 9台

◇除雪従事者 11名

■まちづくり懇談会での意見・要望事項等

《協議事項》

■住生活基本計画・公営住宅等長

寿命化計画

社会情勢、人口減等を勘案し、

現在管理戸数328戸を2030

年末までに278戸とする。

【農業委員会】

《報告事項》

■農地法及び基盤強化法による農

用地集積状況

◇農地法第3条

所有権移転3件、賃貸借1件

◇農地利用集積計画

所有権移転18件 賃貸借27件、

資金借入状況5件

◇農地法第5条転用 2件

◇現況証明 8件

議会のうごき

11月

- 12日 上川町村議会議長会臨時総会（旭川市、議長）
- 16日 上川中央部市・町議会正副議長研修会
～ 17日（東川町、正副議長）
- 25日 総務常任委員会（役場、委員・議長）
- 30日 議会運営委員会（役場、委員・議長）
第6回議会臨時会（役場、全議員）
大雪浄化組合議会定例会（愛別町、組合議員）
愛別町外3町塵芥処理組合議会定例会（愛別町、組合議員）

12月

- 3日 産業建設常任委員会（役場、委員・議長）
- 7日 議会運営委員会（役場、委員・議長）
- 10日 第4回議会定例会（役場、全議員）
議会改革特別委員会（役場、委員・議長）
議会広報特別委員会（役場、委員）
- 22日 大雪消防組合議会定例会（美瑛町、組合議員）

1月

- 10日 第72回比布町成人式（改善センター、議長）
- 13日 議会広報特別委員会（役場、委員）
- 20日 上川町村議会議長会役員会（旭川市、議長）
- 26日 議会広報特別委員会（役場、正副委員長）

傍聴される方に
議案などの資料も
用意しています！



みなさんも

議会を傍聴しませんか

第1回議会定例会は3月上旬に開会します。
内容は令和3年度予算審議などです。
くわしい日程は無線放送等でお知らせします。
傍聴の際はマスクの着用をお願いします。



議会広報特別委員会

委員長 安藤裕子
副委員長 谷口雅浩
委員 遠藤ハル子
佐藤康幸
大熊勝幸



（遠藤ハル子）

科学的知見に基づけばPCR検査が重要であるが、検査数の世界的順位は149位。未曾有の危機をのりこえて希望のある年にしていきたいと思うが、ケア労働といわれる医療機関・福祉施設現場での集団感染は多発しており、重症者を減らすうえでもPCR検査の「社会的検査」は急務である。

今号の議会だよりは、町民の暮らしがよくなるようにと願い、町民の切実な声を行政に届けようと6議員が行った一般質問を載せている。コロナ禍でも元気な議会にしたいと思しますので、ご意見や要望をお寄せください。

編集後記

